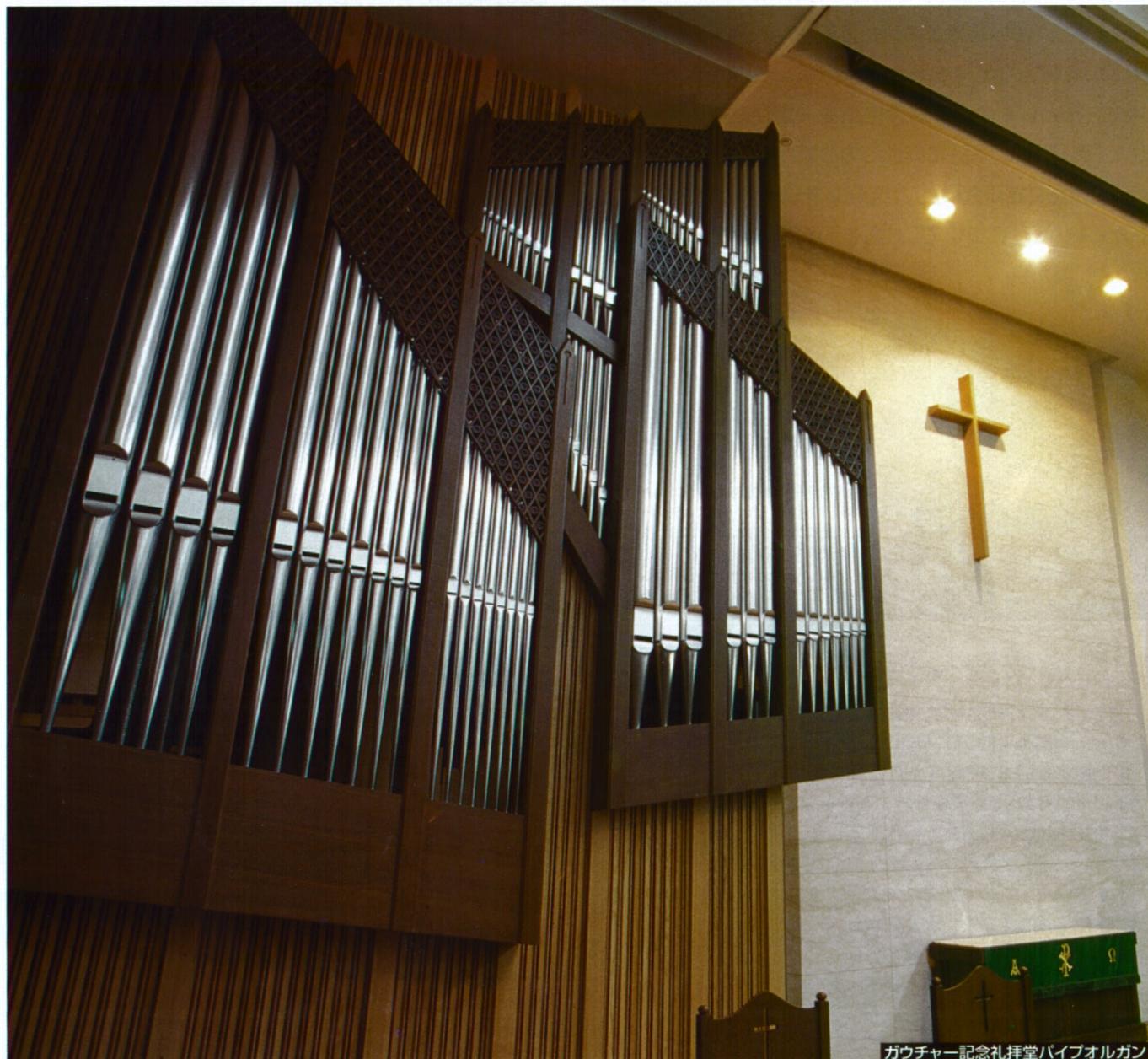


AGU 青山学院大学 NEWS

Vol.
13

AGUニュース第13号
[2002年7~9月号]
青山学院大学・広報入試センター広報課
〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25
TEL.03-3409-8111(代表)
URL. <http://www.aoyama.ac.jp/agunews/>



ガウチャー記念礼拝堂パイプオルガン

特集  AOYAMA
GAKUIN
UNIVERSITY

国際マネジメント研究科、Next Stageへ

AGU TOPIC

- 1 2001年度就職活動を振り返って
- 2 2002年度教員採用試験報告
- 3 本学大学院への進学について

TOPICS

経済学部講演会ノーベル経済学賞受賞者シンポジウム
法学部シンポジウム「法科大学院の法曹養成教育」
ガウチャー記念礼拝堂にパイプオルガンが完成

報告・お知らせ

News Index
Club & Circle Information
2002年度後期公開講座

誌上公開講座

vol.13 乳幼児の心の発達を何が支えるか

INFORMATION

夏期休業期間中の窓口案内
2003年度一般入学試験日程決定

私立大学初の専門大学院 国際マネジメント研究科、Next Stageへ

2001年4月、私立大学で初めての専門大学院としてスタートし、大きな話題を集めた国際マネジメント研究科。2003年度より定員を増やし、同時にプロフェッショナルスクールとしての教育研究機能を一層グレードアップさせた「専門職大学院」に向けての改革が行われています。そこで伊藤文雄研究科長に、国際マネジメント研究科の「現在とこれから」について、お話をうかがいました。



国際マネジメント研究科長
伊藤文雄

研究テーマは市場経済システムにおける市場取引のメカニズムの解明。日本商業学会、日本経営学会、日本経済政策学会、Association for Evolutionary Economics (国際学会) 所属。文部科学省中央教育審議会専門委員

定員増申請～「専門職大学院」へ

国際マネジメント研究科は、来年度より従来70名だった定員を100名に増員し、専門大学院から「専門職大学院」に“進化”します。

専門職大学院は、現行の専門大学院の制度をさらに発展させ、修業年限や教育方法、修了要件等の制度を「高度専門職業人養成」という目的に特化した教育システムにしようというもので、本学でも設置を進めている法科大学院(ロースクール)に準じる教育機関といえます。

本学国際マネジメント研究科では、来年度より、この専門職大学院としての体制を整えるべく、次の4つの改革を行います。

① 修士課程修了要件単位増加

修了要件単位を38単位から48単位に増加します。

② 教育指導が「コースワーク」に

「研究指導型」の修了方式を、プロフェッショナルスクールにふさわしい「単位取得型(コースワーク)」に変更します。

③ 教育課程の弾力化

標準修業年限2年コースに1年制の「エグゼクティブMBAプログラム」、3年制の「長期在学コース」を追加します。そのどちらのニーズにも柔軟に対応できるようになります。

④ カリキュラムの大幅改訂

専門分野を「マネジメント」「ファイナンス」「マーケティング」「アカウントティング」「オペレーションとインフォメーションシステム」という5領域に細分化し、科目編成を充実し、学生の学習目的とレベルに合わせた最適な履修が行えます。

なお、専門職大学院には継続的な第三者評価が義務づけられていますが、私たちはすでに昨年より「専門職大学院国際マネジメント専攻修士課程評議委員会」を開催して、この条件をクリアしています。今

2002年度のカリキュラム体系

I Basic/Analysis/Regional Curriculum	
BAR — 100	Elective Basic Courses
II Major Field of Study	
200	International Business
300	Finance
400	Executive MBA
III Economics	
500	Economics

2003年度カリキュラム体系

I Management Basics	
MBC — 100	Required Basic Courses
MBC — 200	Elective Basic Courses
II Major Field of Study	
MGT — 300	Management
FIN — 300	Finance
MKT — 300	Marketing
ACT — 300	Accounting
OIM — 300	Operations and Information System
III Global Action Learning	
GAL — 400	International Internship
	Management Game
	FAST
IV Executive MBA	
EMBA — 500	Executive Foundation
	Functional Management
	Strategic Management
V Economics	
ECO — 600	Economics

年も6月末に第2回評議委員会が開催されました。評価を行う評議委員メンバーは、前回同様、わが国を代表するトップマネジメントおよび世界各国から集まってきたビジネススクール関係者です。

グローバルなプロジェクトが続々と登場

本研究科からは、2003年3月に第一期の修士課程修了者を輩出します。職業人としての意識が極めて高い学生を迎え、授業評価などを通して教員サイドの意識もますます高まっています。いわば学生と教員の心がひとつになってきたという自負があります。

そうした中で、私たち教授陣は国際マネジメント研究科としてやるべき教育プロジェクトを積極的に企画・開発してきました。今年度実行される主なプロジェクトには以下のようなものがあります。

● Global Knowledge Network Seminar

本年7月24日(水)～30日(火)にモスクワ大学(ロシア)、復旦大学、

東北大学(以上、中国)、高麗大学(韓国)の4大学のビジネス・スクール学生に本学学生を加えたメンバーで、日本経済をテーマにしたセミナーを実施します。マネジメントゲームやスピーチコンテスト、日産自動車の工場見学を行います。

● Global Knowledge Network Tour

本年8月11日(日)～18日(日)の1週間、中国・上海にある復旦大学に本学学生15名を派遣。現地日系企業・外資系企業の見学、および「文化」「政治システム」「経済開発」「経営環境」をテーマとする講義を受講します。将来的には、この企画をインターンシップに発展させる予定です。

● Global Knowledge Network Lecture

本年5月よりテレビ会議システムを利用し、国際マネジメント研究科の講座10科目を中国・復旦大学の学生に開放。これに先立ち、4月22日(月)、青山キャンパスグローバルクラスルームにおいて、復旦大学とのテレビ会議システムにより中国側の記者会見の様子が同時中継されました。



復旦大学との記者会見風景



Dr. Don R. Rathz (The College of William and Mary) による講義

● Dean's Speaker Series

トップマネジメントを本学に招いて、学生が直接その話を聞く機会を提供する企画。本年4月5日(金)、青山キャンパス9号館グローバルクラスルームで、株式会社東芝取締役社長 岡村正氏による「Global Corporate Management and Human Resources」と題した講演会が行われました。講演は、テレビ会議システムにより、中国・復旦大学にも同



岡村 正氏による講演

時中継されました。次回は9月20日(金)開催。(株)NTTデータ通信代表取締役社長 青木利晴氏が講演します。

機関誌「AMR」創刊とデータベース構築

国際マネジメント研究科の「知」の成果を、産業界などに発信していくために、独自のメディアの可能性を追求しています。

まず、本年4月、国際マネジメント研究科機関誌「AMR(Aoyama Management Review)」を創刊しました。この機関誌は学内や学会のみで通用するものではなく、広くビジネス界の方々にも読んでいただける論文誌として、内容、体裁とも十分吟味した自信作。創刊号の特集は、「グローバル社会における人材育成とビジネススクール」で、執筆陣には本研究科教授陣のほか、小林陽太郎氏[富士ゼロックス(株)会長]、八城政基氏[(株)新生銀行社長]、岡村正氏[(株)東芝社長]といったトップマネジメントも名を連ねています。発売は日経BP出版センターで、全国有名書店にて購入(定価2000円税別)可能。10月に発行する2号では「グローバルマネジメント」を特集します。

そして、本研究科で行われている講義やDean's Speaker Seriesの講演などをデジタルデータ化し、「Global Lecture DB(データベース)」の構築作業を進めています。なお、このデータベースの一部は、Web上でも公開しています。(http://gldb.gsim.aoyama.ac.jp/)

国際マネジメント研究科 Other Topics

「エグゼクティブMBAコース」 いよいよ本格始動!

6月7日(金)、国際マネジメント研究科「エグゼクティブMBA」コースの第1セッションがスタート。日本を代表する各企業から集まった役職者たちが青山キャンパスに集結しました。今後、毎週金曜日と土曜日に行われ、1年間で17科目を履修します。世界的に見ても、修士課程のエグゼクティブクラスで学位の授与は殆ど行われていませんが、本学国際マネジメント研究科では日本の大学で初めて、修了者にExecutive MBAの学位が授与されます。

ノースカロライナ大学学生が 国際マネジメント研究科を訪問

5月12日(日)～5月14日(火)、Kenan-Flagler Business School (The University of North Carolina at Chapel Hill, USA) から28名の学生が、本学国際マネジメント研究科を訪問。同研究科Iaquinto, A. L教授、井手正介教授、Takeda, M. B. 助教授による講義などが行われました。



井手正介教授による講演



就職部長 中川 辰洋
(経済学部教授)

2001年度の本学学生の就職内定者はほぼ前年度並みでした。企業の多くが軒並み求人を手控えるという厳しい雇用・就職環境を考慮すれば、好成績といえるでしょう。まずこのような好成績をあげた学生の健闘に敬意を表し、またそうした学生の皆さんに対する教職員の教育・指導、本学OB・OGならびに関係者のご支援ご協力のおかげも忘れてはなりません。これらがいままで得た成果ということになります。

こうした成果を今後とも維持・向上することが肝要であり、そのための態勢づくりがいま問われるわけですが、口でいうよりははるかに難しいといわざるを得ません。実際、2002年度も雇用状況の大幅な好転を望むべくもありません。少なくとも向こう2、3年は厳しい状況が続く、と知人の外資系銀行エコノミストが話してくれましたが、こうした見方は衆目の一致するところでもあります。しかも経済状況が好転しても、雇用が大きく上向くことはないとするエコノミストもけっこう少なくありません。

雇用状況の厳しさはそれにつきませんが、企業サイドの学生向け会社説明会開催はもとより、その前段のアプローチが年々早まり、少なからぬ企業が年明けとともに学生向けにならぬかのアプローチを行っています。

また雇用の形態や契約内容が多様化していることなどにも、もっと目を向ける必要があり、学生にとっては3年次後半ともなると、あやしい情報誌を片手に気持ちだけが先走って勉強どころではなく、そのためまともな知識・教養や社会常識もないままに年明け早々から就職活動をはじめることになります。一方、教職員においては、学年末試験と採点、入試業務という年間を通じてもっとも多忙の折りに、そうした学生の皆さんへの対応を迫られることになり、こうした事態がこの先双方において続けば、結果はおのずと見えてきます。

学生にとって、職に就くことが人生の最大かつ最終の目標ではありませんし、なにがなんでも就職させること(「無業」者をなくすことを含め)が大学本来の目標でもありません。大学キャンパスから世の中に出て行く際に生ずる摩擦を可能な限り小さくすることは、本学学生の大部分が就職を希望する状況を考えれば、われわれ教職員にとって必要不可欠な業務の一部と心得なくてはならないでしょう。

問題はその業務のあり方や手段がい根底から見直さなくてはならない時期にあるという点です。そしてそれを見直す時間のゆとりは、学生はもとよりわれわれ教職員にとっても、ほとんどないということを肝に銘じる必要があります。冒頭に記したように、2002年度も「ほぼ前年度並みの就職内定状況」と報告できる保証はどこにもないのであります。

就職者数ランキングベスト20

人文・社会科学系			
順位	企業名	2001年度	2000年度
1	みずほフィナンシャルグループ	34	41※1
2	全日本空輸	26	4
3	東京三菱銀行	23	18
4	ジェイティービー	19	10
5	日本航空	16	0
6	東京都小学校	14	5
7	大和証券	12	21
7	東京海上火災保険	12	9
9	アメリカンファミリー生命保険	11	3
10	日本アイ・ピー・エム	10	10
10	三井住友銀行	10	13※2
10	野村證券	10	12
10	日本通運	10	8
14	積水ハウス	9	9
14	日本生命保険	9	13
16	日本エアシステム	8	1
16	ティアイエス	8	7
18	富士通	7	6
18	日本興亜損害保険	7	3※3
18	警視庁	7	8

※1 第一勧業銀行、富士銀行、日本興業銀行の合計 ※2 さくら銀行、住友銀行の合計
※3 日本火災海上保険、興亜火災海上保険の合計

理工学系			
順位	企業名	2001年度	2000年度
1	キヤノン	12	10
2	日産自動車	9	4
3	日立製作所	8	7
4	松下システムエンジニアリング	7	10
5	本田技研工業	6	5
5	富士通	6	2
7	ソニー	5	8
7	日本電気	5	5
7	日本アイ・ピー・エム	5	6
7	日本ヒューレット・パカード	5	2
7	日立ソフトウェアエンジニアリング	5	2
7	日立電子サービス	5	1
7	キヤノン販売	5	3
7	コンパック・コンピュータ	5	2
7	アルファシステムズ	5	7
16	NTTデータ	4	2
16	サン・マイクロシステムズ	4	1
16	三洋電機	4	0
16	小糸製作所	4	1
16	図研	4	5

2002年度就職関係行事日程

青山キャンパス(3年生を対象とした主な行事計画)		
行事	日程	内容
第1回就職ガイダンス 「就職活動のスタートに備えて」	9/27(金) (①と②) 10/2(水) (③)	①14:00~ ②18:00~ ③15:00~ ※於:青学講堂 3回とも同じ内容です。就職の手引、キャリアサポートシート、行事予定表等配付。情報誌の申込。
適性検査	9/27(金)他	自己の適性を知り、進路を考える参考とする(費用一部負担)
就職活動ミニガイダンス①②③	10月初・中旬	(就職ガイド)自己分析、企業研究、履歴書、試験について等説明
就職セミナーⅠ(講演会)	10月	(職業観・自己分析)自分らしい生き方を考えるきっかけとする
就職セミナーⅡ(講演会)	10月	(就職ガイド)経済状況や情報収集の方法などを解説
就職セミナーⅢ(講演会)	10月	(業界・企業研究)企業研究や企業選択の方法などを解説
テーマ別セミナー	9/28(土)~	マスコミ、外資系等各業界の仕事内容、採用動向などを解説
ビデオ映写	10月	職種の研究、マナーなど就職活動のビデオを映写
WEB利用説明	10月	web初心者には就職活動支援システムの利用説明
4年生生活報告会	10月	(就職ガイド)就職活動を終えた4年生によるパネルディスカッション
女子学生就職セミナー	10月	(職業観・企業研究)各業界で活躍するOGの現場からのメッセージ
模擬試験(SPI)	10月、11月、2月	採用試験で多く取り入れられているSPI試験を体験(実費)
エントリーシート・自己PR講座	11月、2月	(自己分析・試験対策)エントリーシートの書き方を講義し、実際に書いたシートを添削(実費)
学内企業セミナー	11月、12月	(業界・企業研究)各業界の採用担当者を招き、学内で実施する企業説明会

厚木キャンパス

11月より公務員ガイダンス、進路・就職相談会等を予定。

世田谷キャンパス(理工学部生・理工学研究生対象)

行事	対象者	日程	時間	場所
第1回就職ガイダンス	学部3年生・院1年生	10/9(水)	14:40~16:10	理工講堂
就職適性検査	学部3年生・院1年生	10/16(水)	14:40~16:10	理工講堂
公務員試験ガイダンス	全学生	10/23(水)	14:40~16:10	4305教室
東京警視庁説明会	全学生	10/30(水)	14:40~15:40	4305教室
防衛庁説明会	全学生	10/30(水)	15:45~16:45	4305教室

※追加、変更等もありますので、掲示板にて必ず確認してください。
※ホームページ(<http://www.aoyama.ac.jp>)に就職関連情報を掲載します。



2002年度教員採用試験報告

2001年度(2002年3月)の教員免許取得状況は、表に示しましたように、昼間部274名、第二部85名、計359名で、2000年度(362名)とほぼ同じであったといえるでしょう。次に、2002年度(2002年4月)教員採用状況は昼間部45名、第二部16名、計61名で、前年度(65名)とほぼ同じ状況でした。免許ごとの採用内訳は、幼稚園8名、小学校29名、中学校では英語9名、国語4名、社会1名、高等学校では英語6名、国語1名、地理歴史2名、数学1名となっています。幼稚園が前年度よりも減少していますが、私立幼稚園の採用決定が時期的に遅いこともあって、採用されても教職課程課に報告していない学生がいるためと考えられます。表に示した数は、学生からの報告があったものに限られていますので、実績はここに示された数を上回っていることは確実でしょう。学生の皆さんには採用されることが決定したら、ぜひ報告をしてほしいと思います。

さて、2001年度の免許状取得者数、2002年度の教員採用者数ともほぼ前年度と同じであったわけですが、中学校、高等学校のフランス語、社会科関連科目、理科関連科目などの就職はかなり困難な状況にあります。(高等学校の「地理歴史」「公民」は実習先を確保するのも難しくなっています。)小学校は前年度(25名)よりも増加しましたが、今後も定年等の退職者の急増、少人数学級・複数担任制の導入など、新しい教育の試みが進むことによって、しばらくは採用数の増加傾向は続くと思われまます。小学校教員志望者にはチャンスが広がっているといえるでしょう。

教職は若い人を育てるといふすばらしい職業です。教職につくことを希望する学生は、その意義を自覚し、1年次から計画的に、そして積極的

な態度で教員免許取得のために必要な科目の履修を進めていくことを期待します。(教職課程主任:庄司順一 文学部教育学科教授 記)

2001年度教員免許取得および2002年度教員採用状況 2002.5.1現在

	免許状取得者数				採用者数						合計	
	幼、小、中、高		公立学校		私立学校		計					
	昼間部	二部	昼間部	二部	昼間部	二部	昼間部	二部				
	1種	2種	1種	2種	1種	2種	1種	2種				
幼稚園	22	1	12	1	1	2	4	1	5	3	8	
小学校	45	2	23	0	17	6	4	2	21	8	29	
養、ろう学校					0	0	0	0	0	0	0	
中学校	英語	78	8	23	0	2	1	5	1	7	2	9
	フランス語	9	0			0		0		0		0
	国語	33	1	14	0	2	0	1	1	3	1	4
	社会	27	0	10	0	0	0	1	0	1	0	1
	理科	17	0			0		0		0		0
数学	3	0			0		0		0		0	
高等学校	英語	86		26		3	0	1	2	4	2	6
	フランス語	10				0		0		0		0
	国語	45		17		0	0	1	0	1	0	1
	地理歴史	38		7		2	0	0	0	2	0	2
	公民	10		9		0	0	0	0	0	0	0
	理科	18				0		0		0		0
	数学	4				0		1		1		1
	商業	2		1		0	0	0	0	0	0	0
工業	0				0		0		0		0	
計	274		85		27	9	18	7	45	16	61	

*免許状取得者数の計は人数計。採用者数は本人からの報告分のみによる。(既卒者及び非常勤、臨時講師の教員採用は除く)



本学大学院への進学について

本学大学院では、大学の学部・学科に対応した6研究科ならびに独立研究科(国際マネジメント研究科)を設置。それぞれに博士前期課程・修士課程・博士後期課程があり、現在約970名の大学院生が各分野の研究に取り組んでいます。

各研究科とも少人数のゼミ形式で授業を行い、マンツーマンに近い緊密な指導体制を取るなど、一人ひとりの研究成果を高めるようさまざまな面で配慮。経営学研究科、国際政治経済学研究科、国際マネジメント研究科では、優秀な学生に早期に研究機会を与えるために、学部3年次を終了して進学できる「学内飛び級制度」を導入しています。また、経営学研究科と国際政治経済学研究科では、学部4年次の大学院進学予定者に大学院科目の履修を認める「大学院科目特別履修制度」も用意。研究者を目指す学生は博士後期課程に進学することもできます。また、本大学院では生涯教育における役割を重視しており、「社会に開かれた大学院」として、向学心や研究意欲旺盛な社会人のために、多様なライフスタイルに配慮して「昼夜開講制」を実施。さらに、フルタイムで学ぶことが難しい人のために、限られた時間を活用して興味のある科目を学べる「科目等履修生制度」も実施しています。

博士前期課程・修士課程の入学試験は、本学部生のほか他大学出身者や社会人を対象にした「一般入試」を主に9月～10月に実施。また、本学部生のみを対象とした「学内進学者選抜試験」は主に6月～7月(文学研究科は10月頃)に実施します。こちらは、受験資格として科目履修や成績などの条件をクリアしていることが必要ですので大学院進学を希望する場合は早めにそれらの条件を調べて、学部での履修計画を立てていくことが必要です。「学内飛び級入試」「大学院科目特別履修試験」には、それぞれ卒業要件単位の取得(90%以上)と成績基準(G.P.A.2.40～2.70以上)、外国語要件単位の取得とその成績基準(G.P.A.2.40～2.70以上)が設けられ、希望者はまずこの条件をクリアしている必要があります。

なお、国際マネジメント研究科修士課程では、例年6月に実施していました本学学部4年次生を対象とした学内入試をやめ、一般入試と統合して実施することになりました。また、大学院科目特別履修制度も2003年度より実施しないことになりました。

詳細は、青山キャンパス総合研究所ビル2階の大学院事務室まで。理工学研究科については世田谷キャンパス教務課へお問い合わせください。

2002年度在籍学生数 2002.5.1現在

博士前期課程・修士課程			
研究科・専攻	学内進学者数	在籍学生数	
文学	教育学*	—	22
	心理学*	4	28
	英米文学*	—	35
	フランス文学・語学	—	11
	日本文学・日本語	—	10
	史学	—	34
小計	4	140	
経済学	経済学	5	16
法学	私法	6	22
	公法	3	17
	小計	9	39
経営学	経営学*	6	32
理工学	物理学	35	62
	化学	21	51
	機械工学	20	65
	電気電子工学	28	73
	経営工学	21	38
	小計	125	289
国際政治経済学	国際政治学*	3	36
	国際経済学*	2	17
	国際ビジネス*	—	38
	国際コミュニケーション*	1	69
小計	6	160	
国際マネジメント	国際マネジメント*	7	134
合計		162	810

学内進学者数は学内進学者選抜試験による2002年4月入学者数。在籍学生数には、博士後期課程の人数を含みません。
*印の専攻は昼夜開講制。

経済学部講演会 ノーベル経済学賞受賞者シンポジウム

経済学部は1999年に創立50周年を迎えたことを機に「経済学部21世紀プロジェクト」を企画し、学部の活動を活性化するとともに、私たちの教育研究における貢献を社会的に公開することとしています。

2001年度のオックスフォード大学アトキンソン教授を招いたシンポジウムに続いて、

2002年度は4月23日(火)にコロンビア大



コロンビア大学 ジョセフ・スティグリッツ教授学からジョセフ・スティグリッツ教授をお招きしてシンポジウムを開催しました。東アジア通貨金融危機当時、世界銀行のチーフエコノミストとして、その収拾にあたり、強いリーダーシップを発揮したスティグリッツ教授は2001年のノーベル経済学賞を受賞したこともあって、現在、世界中で講演するなど多忙な毎日を送っています。

経済学部の松下正弘教授とスティグリッツ教授は若い頃からの友人であること、深川由起子助教授が専門分野を通じての親しい交流があることから、今回の招聘が実現したものです。同時通訳をつけたシンポジウムには、学内外の研究者・大学院生に混じって多くの学部学生も参加し、あわせて約250名の盛会となりました。昨年にも増して、参加者の皆様から高い評価を頂くことができました。

シンポジウムはスティグリッツ教授のキーノート・レクチャーに続いて、経済学部の中川辰洋教授と深川由起子助教授の講演が行われましたが、会場には内外からの著名な研究者が参加していたこともあり、講演に続く質疑応答でも活発な議論が続きました。以上のシンポジウムに関しては経済学部のホームページ(<http://www.econ.aoyama.ac.jp/>)の「2002 Stiglitz Symposium」にも掲載していますので、ご覧ください。(経済学部長 美添泰人 記)

青学ベンチャー・ネットワーク

2002年4月24日(水)、青山キャンパスで青学ベンチャー・ネットワークの総会を開催いたしました。鈴木有郷宗教部長の祈禱で始まり、井浦幸雄代表幹事(日本エンジェルズ・フォーラム代表)の挨拶で開会。来賓として、半田正夫学長、辻正重副学長、林伸二学長補佐、長谷川信経営学部長、榎本弘校友会会長に出席していただきました。

本会は、昨年、卒業生、学生、教職員、学生の保護者等の青山学院関係者に幅広く呼びかけ、学生のアントレプレナーシップ(起業家精神)育成支援と青学関係者の創業ベンチャーを盛んにすることを主な目的に設立。代表顧問には、日本ベンチャー学会理事でもあり、本学国際政治経済学部教授の港徹雄氏に就任していただきました。現在正会員は115名、今年学生会員が大学公認のベンチャー研究愛好会を設立、今後の飛躍発展が期待されます。

経営学部では、後期から新たにアントレプレナー基礎講座を開講しますが、130名を越える履修登録があり、私が非常勤講師



半田学長による挨拶を担当、会員がゲストスピーカーとして協力します。

定例会は今後毎月開催しますので、気軽にご参加いただきますようお願いいたします。入会案内等詳細は<http://www.sangyo-npo.jp/aogaku/>を参照。

(青学ベンチャー・ネットワーク副代表幹事 竹内利明 電気通信大学客員助教授 記)

法学部シンポジウム「法科大学院の法曹養成教育」

5月24日(金)、本学法学部・大学院法学研究科は「法科大学院の法曹養成教育:アメリカと日本」というタイトルの下で、本学法学部の教員・学生はもとより他大学からの関係者の参加を得てシンポジウムを開きました。この種の企画としては、2000年4月の連合法科大学院に関するものに次いで第2回目のものです。

その趣旨は、現在具体的な検討が進められている法科大学院に



ついて、その設立後の法曹養成教育の内容や方法に関する問題を、より現実的・実際の観点から検討しようとしたものです。まず、セントルイスのワシントン大学ロースクールのジョン・ヘイリー教授から

アメリカのロースクールとその教育についてワシントン大学ロースクールの場合を例にして具体的に報告していただくとともに、長年にわたり日本法の教育を行った経験を通じて、そこでの教育方法や教材等についても興味ある内容の報告をしていただきました。なお、都合によりプログラムにあったジョエル・セリグマン法学部長の報告もヘイリー先生にさせていただきました。これに対して、わが国の法科大学院設置の検討過程における法曹養成教育に関しては、その具体的な制度や教育の枠組みに関する問題について神戸大学の磯村保法学部長・法学研究科長に、また新司法試験案の法曹養成教育への影響等については、日弁連司法改革調査室副室長の梶嶋裕之弁護士にそれぞれ報告していただきました。以上のような報告の後、討論が行われ参加者との有意義な意見交換が行われました。

現在、本学でも、法科大学院設置検討委員会による「法科大学院の設置に関する答申(第二次)」を大学宛てに提出し、その設立に向けた準備を進めているところですが、こうしたなかで開かれたこのシンポジウムは本学の教員や学生の法科大学院への認識を深める機会になりました。(中村芳昭 法学部教授 記)

ガウチャー記念礼拝堂にパイプオルガンが完成

2002年2月より礼拝堂内での製作が始まったパイプオルガンは、去る5月13日(月)に完成し、5月25日(土)には奉獻式が執り行われました。翌週の27日(月)から毎日の大学礼拝での奏楽に用いられ、その素晴らしい音色で礼拝出席者の賛美の歌声を力強く導いています。

オルガンは、スイスのアルプスの麓ネーフェルスという町にあるマティス・オルガン製作会社によるもので、礼拝堂講壇正面の両側にパイプを振り分ける形で設置されています。3段の手鍵盤と足鍵盤、2,713本のパイプ、39のレジスターは、礼拝での奏楽と会衆賛美のリードや聖歌隊の伴奏はもとより、独唱や他の楽器との共演にも適した仕様を備えています。このオルガンの音色が、キリストの福音を私たちの心に響くように運んでくれるとともに、聴く者の喜びと慰めの媒体として、あらゆる日常の場面で奉仕できるよう願って止みません。

なお、奉獻記念連続演奏会が、6月8日(土)を皮切りに7月中旬まで行われています。詳細は各キャンパスの宗教センターにお問い合わせください。



昼間部・第二部事務部の統合について

青山キャンパス学務部教務課と第二部事務部教務課が統合

今年度の4月から青山キャンパスの昼間部・第二部の教務事務部門が統合されました。これに伴い授業実施日の窓口対応を9:00~21:00に拡大し(土曜日の12:00~15:30は閉室)利便を図ることといたしました。但し、大学の行事、休業期間等によっては取扱い時間の変更や閉室の場合があります。事前に掲示またはWebで確認されるほか、校友の方々には事前に教務課までにお問い合わせください。



学務部教務課(青山キャンパス8号館1階)

青山キャンパス学生部と第二部学生課が統合

学生サービスの向上を目指して、学生部と第二部学生課が統合し、4月より窓口対応をしています。授業実施日の窓口時間を平日9:00~21:00(土曜日は9:00~11:30および16:00~21:00)とし、昼間部、第二部の学生に関わりなく、青山キャンパスに在籍するすべての学生に対するサービスを一本化する体制が誕生しました。今後も学生生活をサポートする部署として、今まで以上に機能していくことが期待されています。



学生部(青山キャンパス1号館1階)

1 袴田教授による公開ゼミナール開催

4月16日(火)青山キャンパス1号館120教室において、国際政治経済学部袴田茂樹教授による公開ゼミナールが開催されました。ウズベキスタンより国際問題の研究者であるE・アブドゥラエフ氏(横浜国立大学客員研究員)を招聘「Islamic Revivalism and Central Asia after 9.11.2001」をテーマとした講演会が行われ、その後学生との自由討論会が行われました。



2 機械創造工学科竹本教授が 科学技術奨励賞を受賞

本学理工学部機械創造工学科竹本幹男教授がスガウエザリング技術振興財団より、科学技術奨励賞を受賞。今回の受賞は、溶射鋼管杭の長期海洋暴露試験に基づく重防食溶射の評価と技術開発の功績によるもの。なお、表彰式は4月24日(水)、東海大学校友会館で行われました。

3 有職者奨学金制度を新設

2002年度より、本学の第二部に在籍する2年次以上の学生のうち、自らの勤労所得によって学資を支弁する学業意欲が旺盛な者で、学業成績、人物ともに優れている学生に対して奨学金を給付し、第二部の勤労学生の修学を支援・奨励することを目的として新設しました。

4 第53回対東北学院大学総合定期戦

第53回を迎えた今年は、6月1日(土)から3日(月)までの期間中、本学を舞台に18種目の定期戦が行われました。各会場で白熱した試合が展開された結果、本学が10勝8敗で総合優勝を果たし、通算成績を35勝18敗としました。来年の第54回大会は、仙台の東北学院大学で開催。両校の選手並びに関係者の親睦がより深まるものと期待されます。



た試合が展開された結果、本学が10勝8敗で総合優勝を果たし、通算成績を35勝18敗としました。来年の第54回大会は、仙台の東北学院大学で開催。両校の選手並びに関係者の親睦がより深まるものと期待されます。

5 清里サマー・カレッジ

静かな大自然の中にある清里・ハガ岳寮で、学生と教員が生活を共にしながら、聖書や讃美歌に親しみ、年齢や学部・学科にとらわれずに参加者同士が語り合える機会です。今年度は8月1日(木)～3日(土)、「心と社会の癒しを求めて」という主題のもとに開かれます。生きることや愛することなどについて、一緒にじっくりと考えてみましょう。

6 前期終了科目成績通知について

前期終了科目の成績通知は、9月中旬以降、各キャンパス内設置の学生情報端末にて行います。なお、当該年度末までの成績は来年3月中旬頃保証人住所宛に郵送しますが、卒業決定者については保証人宛に郵送せず、学位授与式当日、学生本人に配付する予定です。

7 西日本地区父母懇談会のお知らせ

東日本地区父母懇談会につきましては、前号(AGUニュース vol.12)でお知らせいたしましたが、本年度は下記のとおり西日本地区においても父母懇談会を開催いたします。対象地区のご父母には後日ご案内いたします。

なお、当日は公開講演会もあわせて開催いたしますので、ご参加ください(9ページ参照)。

開催都市	対象地区	開催日	会場
大阪市	大阪府・京都府・兵庫県・岡山県・滋賀県・奈良県・和歌山県	9月16日(月・祝)	グランキューブ大阪(大阪国際会議場)
福岡市	福岡県・佐賀県・熊本県・長崎県・山口県・広島県	10月19日(日)	ホテルニューオータニ博多

8 「青山学報」が200号記念号を発行

「青山学報」(本部広報室発行)が復刊200号に達し、記念特集号が発行されました。「青山学報」は幼稚園から大学に至る学院各部の現況や、校友の活動等を伝える季刊誌です。創刊は1916年に遡りますが戦時中にもやむなく休刊。戦後、1953年に復刊1号を発行し、現在も学院の総合誌として刊行中です。

定期購読は校友センター(Tel 03-3409-6645)で受け付けています。



9 校友会ホームページの開設



青山学院すべての卒業生を会員とする校友会では、この度全卒業生20万人を対象としたホームページを開設しました。今後楽しく役立つ情報を掲載し、充実させていく予定です。

<http://www.alumni-aogaku.or.jp/>

在学生の皆さんも、卒業されると必ず会員となる校友会のHPですので、ぜひ一度アクセスしてみてください。

10 第9回大学同窓祭案内

9月23日(月・祝)10:00～青山キャンパスにおいて「あの日に会える」をテーマに第9回大学同窓祭を開催します。開催内容はチャペルコンサート、舞台朗読(幸田弘子)、フォーラム2002(中田 宏横浜市長他)、公開講座、青山寄席、子どもの広場、模擬店、展示即売等を予定しています。詳細はTel 03-3409-8990(同窓祭実行委員会事務局)。

News Index

WEEKLY AOYAMAのタイトル紹介 2002.04~06
2002年4月下旬~6月中旬までの主なタイトルを掲載しています。

02年4月

- 「オープンキャンパス」ボランティア学生募集
- 2002年度課外教育プログラム「青山交流キャンプ」のお知らせ

02年5月

- 本学国際政治経済学研究所大学院生伊藤丈人さんがCWAJ奨学生に選抜される
- 映画美術監督 木村威夫氏による講演会開催
- ペンテコステ音楽礼拝のお知らせ
- ランチタイム・コンサートののお知らせ
- 青山学院大学公開講座「キリスト教と現代社会—旧約聖書に学ぶ人生」のお知らせ
- 大学紹介パンフレットが完成

02年6月

- 厚木キャンパス ランチタイム・コンサート
- 本学院羽坂勇司理事長が日本歯科大学より名誉博士号を授与される

- 私立大学情報教育協会より本学から2名の表彰者
- 本学女子ソフトテニス部、関東学生春季リーグ戦でダブルス部門優勝
- 本学少林寺拳法部、関東学生大会で健闘
- 社会人を対象としたパンフレット「社会人のための入学案内2003」が完成
- TVKテレビ(神奈川テレビ)開局30周年記念番組の中で本学を紹介
- 2003年度一般入学試験日程決定
- オープンキャンパスのお知らせ
- 社会人のためのオープンキャンパスのお知らせ
- 経済学会主催講演会「日本のODA政策」のお知らせ
- 英文学会主催講演会「ブロードウェイ・ミュージカルの現況」開催
- ガウチャー記念礼拝堂パイプオルガン奉獻記念連続演奏会のお知らせ
- 第37回オルガン演奏会のお知らせ
- 青山キャンパスからNHKニュース「おはよう日本」放映

Club & Circle Information

2002年度主要活動予定(2002年8月~10月)

問い合わせ先 学生部生課
Tel 03-3409-8111(内線12163, 12164)

* 主な体育連合会・文化連合会の活動予定。大会等の日程は予定のものです。
今後変更になる可能性もあります。

- アイススケート部 ○関東大学アイスホッケーリーグ戦(10~12月)○関東大学フィギュアスケート選手権(10月)
- アメリカンフットボール部 ○秋季関東アメリカンフットボールリーグ戦(9月~11月)
- 空手道部 ○関東大学空手道選手権大会(10月)
- 剣道部 ○全日本学生剣道優勝大会(10月)
- 硬式庭球部(男子・女子) ○全日本学生テニス選手権大会
- 硬式野球部 ○東都大学野球秋季リーグ戦(9月~10月)
- サッカー部 ○関東大学サッカー秋季リーグ戦(9月~10月)
- 自動車部 ○全日本ジムカーナ選手権大会他(8月)
- 柔道部 ○正力松太郎杯争奪全日本学生柔道大会(10月)
- 水泳部(男子・女子) ○日本学生選手権(9月)
- ソフトテニス部(男子・女子) ○全日本学生大学対抗選手権(8月)
- 卓球部(男子・女子) ○全日本学生選手権(8月~10月)
- チアリーディング部 ○オープンキャンパス演技(7・9月)○JAPAN CUPチアリーディング日本選手権大会(8月)
- 軟式野球部 ○東都大学軟式野球連盟秋季リーグ戦(9月~10月)
- バスケットボール部 ○関東大学リーグ戦(9月~10月)男子○関東女子学生バスケットボールリーグ戦(9月~10月)
- バドミントン部(男子・女子) ○全日本学生バドミントン選手権大会(10月)
- バレーボール部(男子・女子) ○秋季関東学生バレーボールリーグ戦(9月~10月)
- ヨット部 ○関東学生ヨット選手権大会(9月~10月)
- ラグビー部 ○関東大学対抗戦Aグループ(9月~12月)
- 陸上競技部 ○東京箱根間往復大学駅伝競走予選会(10月)
- レスリング部 ○全日本大学選手権大会(8月)
- アナウンス研究会 ○オープンキャンパス「在学生による合格体験トークライブ」(7・9月)
- E.S.S. ○チャールズ杯スピーチ大会予選(10月)
- オラトリオ・ソサエティ合唱団 ○第38回定期演奏会(10月)
- ギターアンサンブル ○関東学生ギター連盟独奏会(10月)
- グリーンハーモニー合唱団 ○東京六大学混声合唱連盟合唱祭(10月)
- 広告研究会 ○キャンパスブスター(千葉県富浦町)(8月)
- 舞蹈研究会 ○モダン新人戦他(10月)
- リズムマンドリーノ ○全国マンドリン連盟演奏会(8月)
- ロイヤルサウンズジャズオーケストラ ○山野 BIG BAND JAZZ CONTEST(8月)
- 二部青山ジャムセッション ○代々木公園ライブ(9月)
- 吹奏楽パトワリング部 ○オープンキャンパスパレード(7・9月)○東京都大学吹奏楽コンクール(8月)
- 応援団 ○オープンキャンパスリーダー公開(7・9月)

2002年度後期公開講座 青山学院大学公開講座

〈青山学院大学公開講座〉

文学と都市 —パリに残る文学の足跡—

- 9/28(土) ●街に響く声・テキストに響く声—ラブレターを通して—
文学部助教授 平野 隆文
- 10/5(土) ●17世紀パリの演劇界 文学部助教授 秋山 伸子
- 10/12(土) ●フランス革命/女性/文学 文学部教授 植田 祐次
- 10/19(土) ●都市空間・モデルニテ・記憶 文学部教授 露崎 俊和
- 10/26(土) ●20世紀のパリ—サルトルを通して—
文学部教授 石崎 晴己

定員:250名

受講資格:どなたでも受講できます

受講料:無料

時間:15:00~16:30

会場:青山学院大学青山キャンパス 11号館1123教室

申込期間:9/6(金)~14(土) [申込期間内必着のみ受付]

申込先:〒150-8366 (郵便番号のみで届きます)

青山学院大学 庶務部学長事務室 公開講座担当

Tel 03-3409-8111 内線12273 FAX 03-3409-0927

〈青山学院大学・渋谷区共催公開講座〉

コミュニケーションと異文化へのまなざし

- 11/8(金) ●コミュニケーション能力の育成と評価
文学部教授 木村 松雄
- 11/15(金) ●歴史・宗教・文学にみるユダヤ人の精神構造
経営学部教授 佐川 和茂
- 11/22(金) ●ことばの解剖学—音声学で解き明かすこゝの世界—
経済学部教授 玉木 隆敏
- 11/29(金) ●身ぶり対話 文学部助教授 野邊 修一
- 12/6(金) ●謝罪の意味をめぐって—一日米比較とコミュニケーション—
文学部専任講師 小谷 真理子

定員:250名

受講資格:どなたでも受講できます

(ただし、渋谷区在住、在勤、在学者優先)

受講料:無料

時間:18:45~20:15

会場:青山学院大学青山キャンパス 11号館1123教室

申込期間:10/15(火)~23(水) 必着

申込先:〒150-8010 (郵便番号のみで届きます)

渋谷区教育委員会 社会教育課社会教育係

Tel 03-3463-1234 内線2842~2845

上記講座の申込方法:申込者1名につき1枚の往復はがきに「講座名・氏名(フリガナ)・郵便番号・住所・電話番号・性別・年齢・職業」を明記のうえ、上記宛先に郵送してください。申込締め切り後、受講証を発送します。なお、申込者多数の場合は抽選とさせていただきます。

〈公開講演会〉

大阪府/9/16(月・祝) グランキューブ大阪(大阪国際会議場)

第一部 マネジメントIT戦略とeラーニング

経営学部教授 玉木 欽也

第二部 競争力と再生とビジネス・アーキテクチャー

経営学部教授 田中 正郎・国際政治経済学部教授 堀内 正博

福岡県/10/19(土) ホテルニューオータニ博多

神奈川県相模原市/12/14(土) 小田急ホテルセンチュリー相模大野

第一部 幼児の心の教育 文学部教授 佐伯 胖

第二部 障害のある子どもと教育 文学部助教授 早坂 方志

いずれも開催時間、申込方法等、詳細については現在調整中です。受講料は無料、どなたでも参加できます。詳細については、下記にご連絡いただくか、本学ホームページをご覧ください。

問い合わせ先:

青山学院大学 庶務部学長事務室 公開講座担当

Tel 03-3409-8111 内線12273 FAX 03-3409-0927

http://www.aoyama.ac.jp/daigaku

乳幼児の心の発達を何が支えるか

庄司 順一
文学部教育学科教授

1949年生まれ。早稲田大学教育学部教育学科卒業。早稲田大学大学院文学研究科心理学専攻修士課程修了。文学修士。専門分野は乳幼児臨床教育学。主な活動は、都立母子保健院心理指導員、日本子ども家庭総合研究所主任研究員。1999年より青山学院大学文学部教育学科教授。

今日、子ども、子育てをめぐる、さまざまな問題が指摘されています。ここでは、「子ども虐待」を通して、乳幼児の心の発達を支える条件について考えてみます。

子ども虐待

子ども虐待の事例については、児童相談所、乳児院・児童養護施設などでは戦後ずっと関わってきました。しかし、最近まで一般には大きな関心をもたれることはありませんでした。平成12年に改訂された「保育所保育指針」に「虐待などへの対応」という一項が加わりましたが、これは、子ども虐待の問題が一般化したことを意味しているといえるでしょう。また、同年、「児童虐待の防止等に関する法律」（児童虐待防止法）も施行されました。

虐待は子どもの心身に深刻な影響を及ぼしますし、対応が困難なので、多くの人に理解を深めていただきたいと思います。

日本語の「虐待」と英語の「アブユーズ」"abuse"では語感がかなりちがうことに留意しなければなりません。私たちは、かなりひどい暴力をする場合を「虐待」と考えがちですが、英語の「アブユーズ」には「乱用」「誤用」といったかなり広い意味合いがあるようです。



子ども虐待の定義は、「おとなが子どもに不当な権力行使をすること、つまり子どもの権利侵害と、そのために子どもの心身に重大な影響が生じること」であり、明らかな暴力をともなわない虐待、つまり心理的虐待やネグレクト（不適切な養育、養育の怠慢、放置）も「虐待」に含まれます。

わが国の子ども虐待の実態に関しては、全国の児童相談所の相談処理件数の統計がありますが、調査がはじまった平成2年度には1,101件であったのが、平成12年度には17,725件と急増しています。

虐待への対応については、まず、発見すること、気づくことが大事です。虐待の場合、これがあれば「虐待」と必ず判断できる徴候というものはありません。したがって、子どものようす、親のようす、親子関係のようすから、「何か変だ」と感じたら、もしかすると虐待かもしれないと考えてほしいのです。子どもへの虐待は決してまれではないですし、乳児においては生命に関わることも少なくないからです。新聞に報道されるような死亡例では、しばしば、近所の人は気づいていたことを思い起こしてください。

さて、虐待を疑ったら、児童相談所に通告します。通告というとおおげさに考えられますが、通告の書式はとくになく、手紙でも電話でもかまいませんし、訪問して相談するのもかまいません。匿名でもいいのです。大事なことは、「疑い」の段階で早めに対応することです。虐待ではなかったらどうしようと躊躇することがありますが、虐待かどうかは児童相談所が判断すればよいこと

です。通告者を児童相談所が保護者に伝えることはありません。通告の意味は、親を告発したり、断罪することではありません。子どもを救い、子育てに悩んでいる親を支援することなのです。

発達を支える条件

まず、「安心感のある環境」が重要だと思います。虐待を受けた子どもは、表情の乏しさ、心身の発育・発達の遅滞、攻撃的・乱暴な言動など、さまざまな問題を表します。そのような子どもは、とくに乳幼児であれば、乳児院などに保護して、虐待されない環境におかれると、しばしば急速に改善していきます。子どもにとって、安心できる環境がいかに大事であるかを知ることができます。

子どもの心が健全に発達していくためには、暖かく、安定した関わりを通して、親との間に、自分が愛されている、「お母さんといればぼくは大丈夫」と思えるような愛情の絆（アタッチメント）、信頼関係が形成されていることが大事です。そのためには、楽しいときを共にすごすこと、困ったときには助けてもらえるという経験を子どもがもつことが重要だと考えられます。

次に、自己肯定感をもてることが大切ではないでしょうか。自己肯定感とは、自分が生きていることには意味がある、自分は愛される価値がある、自分は大事な存在である、自分には何かできるなどと、自分自身を肯定的にとらえられる感覚をいいます。これは、生きていく上で、決定的に重要です。自分の人生を主体的に生きていくことができるようになるからです。親から否定的なメッセージを与えられ続けたり、劣等感を強くもったりすれば、つまり「どうせオレなんか」と思ってしまったり、人生に目標をもち、それに向けて努力をすることなどでできず、その場限りの満足を得ることに終始してしまうでしょう。自分をそのまま受け入れてもらえる体験をもつことが、自己を肯定的にとらえることにつながっていくと思われま

夏期休業期間中の窓口案内 対象期間 8/1(木)～9/28(土) 一斉休業期間 8/1(木)～8/7(水)

部署	窓口事務取扱期間	曜日	取扱時間	備考	
青山キャンパス	庶務部	8/8～9/12	月～金 9:00～16:00	9/13(金)より平常通り	
	教務課	8/8～9/12	月～金 9:00～19:00(11:30～12:30は除く)	9/30(月)より平常通り	
		9/13～9/28	月～金 9:00～19:00(11:30～12:30は除く) 土 9:00～19:00(12:00～15:30は除く)		
	教職課程課	8/8～9/12	月～金 9:00～15:30	9/13(金)より平常通り	
	学生部	8/8～9/12	月～金 9:00～19:00(11:30～12:30は除く)		
	就職部事務室	8/8～9/12	月～金 9:00～11:30、12:30～15:30	土曜のみ9:00～12:00	
	9/13～9/28	月～土 9:00～11:30、12:30～16:00			
	就職部資料室	8/8～9/12	月～金 9:00～16:00	土曜のみ9:00～13:00	
	9/13～9/28	月～土 9:00～17:00			
	図書館	8/8～9/12	月～土 9:00～19:00(土曜のみ13:00～19:00)	9/13(金)より平常通り 休館中の本の返却はブックポストに入れてください	
	大学院事務室	8/8～9/12	月～金	9:00～15:30(11:30～12:30は除く)	9/13(金)より平常通り
	広報入試センター			9:00～16:00(11:30～12:30は除く)	
	総合研究所事務室			9:00～19:00	
	情報科学研究センター			9:00～15:30(11:30～12:30は除く)	
	国際交流センター	8/8～9/14	火・金	9:00～19:00	9/30(月)より平常通り
外国語ラボラトリー	9/17～9/27	月～金			
学生相談センター	8/8～9/12	月～金	9:00～16:00	9/30(月)より平常通り	
	9/13～9/28	月～土	9:00～17:00(土曜のみ11:30まで)		
保健管理センター	8/8～9/12	月～金	9:00～15:30	9/30(月)より平常通り 11:30～12:30は除く	
	*8/16～8/23	月～金	9:00～15:30、17:30～20:00		
	9/13～9/28	月～土	9:00～16:00(土曜のみ11:30まで)		
宗教センター	8/8～9/10	月～金	9:00～16:00	9/30(月)より平常通り	
	9/11～9/28	月～土	9:00～17:00(土曜のみ13:00まで)		
世田谷キャンパス	庶務課	8/8～9/12	9:00～16:00	9/13(金)より平常通り	
	教務課		10:00～15:00		
	学生課		9:00～15:30		
	就職課	9/13～9/27	月～金	9:00～16:30	休館中の本の返却はブックポストに入れてください
	図書館	8/8～9/12	月～金	9:00～16:00	*開室日については各窓口の掲示板をご覧ください。 9/13(金)より平常通り
	情報科学研究センター	8/8～9/12	月～金	9:00～16:00	
	外国語ラボラトリー				
	学生相談センター				
	保健管理センター				
	理工学研究センター				
機械工作室					
先端技術研究開発センター					
理工学会	8/8～9/12	月～金	9:00～16:00	ただし経理係は9:00～15:00	
宗教センター	8/8～9/12	月～金	9:00～15:30		
厚木キャンパス	庶務課	8/8～9/12	月～金	9:00～15:30	9/13(金)より平常通り
	教務課				
	学生課	8/8～9/12	火・水・金	9:00～15:30	9/13(金)～28(土)は、平日17:00土曜13:00まで開館 (但し、9/18(水)、19(木)は、書庫整理のため、休館) 9/30(月)より平常通り
	万代記念図書館	8/8～9/12	月～金	9:00～16:00	9/13(金)～27(金)9:00～17:00 9/30(月)より平常通り
	情報科学研究センター	8/8～9/12	月～金	9:00～16:00	9/13(金)より平常通り
	国際交流センター	8/8～9/12	火・金	9:00～15:30	
	外国語ラボラトリー				
学生相談センター					
保健管理センター					
宗教センター	8/8～9/12	月～金	9:00～16:00	*開室日は、窓口の掲示板をご覧ください。 9/13(金)より平常通り	

詳細は各キャンパスの掲示板をご覧ください。

大学学費納付について (大学院の学費納付については、大学院要覧を参照してください)

1.学費振込依頼書発送時期

- 後期振込依頼書発送予定日9月10日(火)【納付期限10月4日(金)】
- 学費振込依頼書は、上記の日程で保証人宛(第二部のみ申し出のあった場合は学生宛)に送付致します。
- 学費振込依頼書に記載の銀行本・支店での振込みは、振込手数料は無料です。
その他の都市銀行、地方銀行、信用金庫、信用組合、農業組合等での振込みは、振込手数料が必要になります。

***注意** 自動振込機による振込は絶対にしないようご注意ください。
(学費納入の確認が不可能のため)

2.下記事項問い合わせ先(学費未納等事故防止のため)

- 住所変更(保証人・本人)→学生部厚生課(青山キャンパス)
各キャンパス学生課(世田谷・厚木キャンパス)
- 退学希望者 →昼間部は教務課(各キャンパス)
理工学部・第二部は学生課
- 学費振込依頼書紛失→経理部出納課
- 転部・編入学・転学部・転学科・再入学の学生の学費は、経理部出納課にお問い合わせください。

青山キャンパス 03-3409-8111(代表)
厚木キャンパス 046-248-1221(代表)
世田谷キャンパス 03-5384-1111(代表)

3.納付期限の延納を希望する場合は、納入期限までに各キャンパスの学生部または学生課へ願ひ出してください。

無断で学費を滞納すると除籍になる場合もありますので注意してください。

2002年度学費一覧表(入学年度別)

単位:円

学部	年度			
	2002年度入学生	2001年度入学生	2000年度入学生	1999年度入学生
	後期	後期	後期	後期
文学部				
経済学部				
法学部	352,500	352,500	352,500	330,000
経営学部				
国際政治経済学部				
理工学部	512,500	512,500	512,500	480,000
文学部第二部				
経済学部第二部	222,000	219,000	219,000	205,000
経営学部第二部				

- 上記以外に、文学部心理学科夜間主コース・法学部・国際政治経済学部・理工学部の学生でスポーツ(実技)を履修する者は、体育実習科として3,000円が後期授業料に加算されます。
 - 第二部の学生でスポーツ(実技)を履修する者は、体育実習科として2,500円が後期授業料に加算されます。
 - 上記学費一覧表は、転部・編入学・転学部・転学科・再入学・留年等は除きます。
- 経理部出納課 03-3409-6479(直通)

2003年度一般入学試験日程決定

学部・学科・コース・方式	出願期間	試験日	合格発表日	入学手続日		
理工学部	1/8(水)~1/27(月) 郵送受付に限ります。 (締切日消印有効)	物理学科 化学学科 機械創造工学科 経営システム工学科	2/10(月)	2/17(月)	2/24(月) 2/25(火)	
		電気電子工学科 情報テクノロジー学科	2/11(火)			
		文学部	教育学科(B方式) 英米文学科(A方式) フランス文学科 日本文学科(B方式)			2/13(木)
			史学科 心理学科専攻主コース 教育学科(A方式) 英米文学科(B方式) 日本文学科(A方式) 心理学科夜間主コース			2/20(木)
経営学部	1/8(水)~1/31(金)	2/15(土)	2/21(金)	2/27(木)・2/28(金)		
法学部	郵送受付に限ります。	2/17(月)	2/23(日)	3/3(月)・3/4(火)		
国際政治経済学部	(締切日消印有効)	2/18(火)	2/24(月)	3/3(月)・3/4(火)		
経済学部		2/19(水)	2/25(火)	3/5(水)・3/6(木)		
文学部第二部	郵送受付(締切日消印有効)	2/26(水)	3/3(月)	3/10(月)		
経済学部第二部	1/8(水)~2/14(金)					
経営学部第二部	窓口受付(青山キャンパス) 2/19(水)に限ります。				3/11(火)	

進学相談会後期日程

開催日	開催地	会場
9/3(火)	会津若松	会津若松ワシントンホテル
9/4(水)	郡山	郡山ビューホテルアネックス
9/5(木)	いわき	いわきワシントンホテル
9/24(火)	水戸	水戸プラザホテル
9/25(水)	宇都宮	マロニエプラザ
9/26(木)	桐生	桐生市市民文化会館
9/27(金)	高崎	高崎サンパレス
8/23(金)	大宮	大宮ソニックシティ
9/7(土)	新宿	新宿NSビル
9/8(日)	新宿	新宿NSビル
9/14(土)	●新宿	新宿エルタワー
9/14(土)	横浜	横浜新都市ビル(横浜そごう)
9/15(日)	横浜	横浜新都市ビル(横浜そごう)
2003年		
3/21(金・祝)	有楽町	東京国際フォーラム
9/9(月)	長岡	ホテルニューオータニ長岡
9/10(火)	新潟	ホテル新潟
9/17(火)	甲府	ベルクラシック甲府
9/18(水)	松本	ホテルブエナビスタ
9/19(木)	長野	ホテルメトロポリタン長野
9/11(水)	富山	富山全日空ホテル
9/12(木)	金沢	金沢全日空ホテル
9/13(金)	福井	福井フェニックスプラザ
8/10(土)	名古屋	中小企業振興会館
9/7(土)	静岡	ツイン・メッセ静岡
9/21(土)	名古屋	愛知県体育館
8/31(土)	大阪	大阪城ホール
8/24(土)	広島	基町クレド
9/15(日)	広島	広島グリーンアリーナ
9/5(木)	高知	高知新阪急ホテル
9/6(金)	高松	高松市市民文化センター
9/18(水)	徳島	ホテルクレメント徳島
9/19(木)	松山	愛媛県民文化会館
8/31(土)	福岡	アクロス福岡
9/17(火)	宮崎	MRT micc
9/18(水)	鹿児島	かごしま国際ジャングルパークベイサイドガーデン
9/20(金)	長崎	長崎プリンスホテル
9/25(水)	大分	トキハ会館
9/26(木)	北九州	リーガロイヤルホテル小倉
9/30(月)	佐賀	マリトピア

●: 社会人向けの進学相談会

お詫びと訂正

前号AGUニュース第12号8ページ、「青山学院大学2002年度新役員紹介」において、「大学院国際政治経済学研究所長 袴田茂樹教授」の前任者を「高森寛教授」と掲載しましたが、「石川昭教授」の誤りでした。謹んでお詫び申し上げます。

相模原新キャンパス説明会

相模原キャンパスに関する説明会を受験生とその保護者を対象に行います。受験生のみならず、高校1・2年生のご来場もお待ちしております。

日時: 2002年11月10日(日) 10:00~16:00
(受付は9:45~、予約不要、入退場自由)

場所: 青山キャンパス

開催内容: (時間等詳細はホームページでご確認ください)

新キャンパス概要紹介・CG公開・パネル・模型・写真展示/歓迎礼拝/パイプオルガンコンサート/青山学院史資料展示/大学紹介・入試概要紹介/保護者を対象とした大学ガイダンス/ビデオ上映/個別進学相談/入学試験場公開/リスニング試験体験/在学生講演会①入試直前体験!実況ライブ②青学合格への道標/一般入学試験過去問題集配布(2002年度/CD-ROM版)

相模原新キャンパス PhotoGraph

神奈川県相模原市に建設中の相模原キャンパス。2003年4月の開学に向け建設作業が急ピッチで進められています。(写真は5月中旬現在)



上空からの写真



メディアセンター(左)
理工学部棟(中)、実験・研究棟(右)



建設が進むチャペル



外壁工事の進むメディアセンター

シリーズ大学探訪

12

使徒ヨハネ像

厚木キャンパス ウェスレー・チャペル前の、円形池の中心に立つ像が使徒ヨハネ像です。この像は、人を導き、救う使徒になり、伝道者としてその生涯をささげた「漁る人・ヨハネ」を、敬虔なカトリック教徒にして中等部教諭であった小坂圭二が、十字架による贖いの信仰をこめ厚木キャンパス開学時に制作したものです。小坂は、戦時中、ラバウルでの死生体験で信仰を深め、戦後は高村光太郎の作として十和田湖畔に立つ「乙女の像」の制作に助手として携わりました。

このヨハネ像は、相模原キャンパスに移設されることになっています。



AGUニュースについて

青山学院大学では、大学広報誌「AGUニュース」を年5回(1月、3月、5月、7月、10月)発行し、在学生の保証人宛に送付しています。あわせて、本学ホームページには「AGU News on Web」を開設。「AGUニュース」の内容を抜粋して掲載するとともに、

大学のタイムリーなニュースを簡潔な文字情報で週ごとにお知らせする「Weekly AOYAMA」ページも設けております。更に「Weekly AOYAMA」につきましては、2週分のニュースの中から主要な記事を抜粋し、在学生を対象に「AGUニュースレター」として学内のAGUニュース専用スタンドにて配布しています。なお、「Weekly AOYAMA」は、8月より大学が夏期休暇期間となるため、しばらくの間更新を休止し

たします。9月下旬より再スタートいたしますので予めご了承ください。

※保証人の方は、お手数ながら本誌を学生へ回付してくださいませようお願いいたします。

AGUニュースのバックナンバーはこちらをご覧ください。

AGU News on Web
<http://www.aoyama.ac.jp/agunews/>